

## 研究主題「小学校音楽科における

### 児童の鑑賞の能力を育成するための指導と評価の工夫」

東京都教職員研修センター研修部授業力向上課  
渋谷区立本町東小学校 教諭 栖原太郎

#### 研究のねらい

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「音楽科、芸術科(音楽)の現状と課題、改善の方向性(検討素案)」(平成19年9月10日)では、課題として「歌唱の活動に偏る傾向があり、表現の他の分野と鑑賞の学習が十分でない状況が見受けられる。特に、創作と鑑賞の充実が求められている。」と示され、さらに改善の方向性として「鑑賞活動は、学校・学年段階に応じ、音楽のおもしろさやよさを生み出している様々な要素の働きなどを感じ取り、音楽に対して、根拠をもって自分なりに批評することのできるような力の育成を図るようにする。」と示している。また「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(平成20年1月17日 中央教育審議会)においても同様に示された。

一方、(財)音楽鑑賞教育振興会の「学校における鑑賞指導に関するアンケート調査報告書」(平成18年4月1日)によると、「指導と評価の一体化」について小学校音楽専科教員の57.4%の教員が「思い通りにしていない」と回答し、理由として「評価への疑問」(30.4%)、「児童のみとり方が難しい」(29.3%)を挙げている。

このことから、鑑賞領域の活動を充実させ、児童の鑑賞の能力の向上を図ることが大切であると考えた。そこで本研究では、小学校音楽科における児童の鑑賞の能力を育成するための指導と評価について明らかにすることをねらいとする。

#### 研究の内容と方法

##### 1 研究仮説

上記のねらいを達成するために以下の仮説を立て、検証を行った。

小学校音楽科鑑賞領域において、学習カード等を活用し、段階的な指導を踏まえた指導と評価の工夫を行うことで、児童の鑑賞の能力の向上を図ることができるだろう。

##### 2 基礎研究

小学校学習指導要領解説音楽編(平成11年5月)や国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(小学校) 評価規準、評価方法等の研究開発(報告)」(平成14年2月)、中央教育審議会答申等から「鑑賞の能力」について次のようにとらえた。

「鑑賞の能力」: 音楽を特徴付け、そのよさや楽しさ、美しさを生み出している様々な要素を感じ取り、それを基に根拠をもって自分なりに批評することができる力

##### 3 指導と評価の工夫

本研究では、研究仮説を検証するために次の3点を研究の視点とした。

###### (1) 学習カード等の工夫(図1 参照)

鑑賞の能力を客観的に評価するには、児童が感じたり味わったりしたことを、言葉で表現させることが有効であると考えた。

児童が音楽を特徴付けている要素について学習し、感じ取った要素を関連付けて音楽全体のよさを味わう際に、学習カードや掲示資料を活用し、評価に生かすようにした。

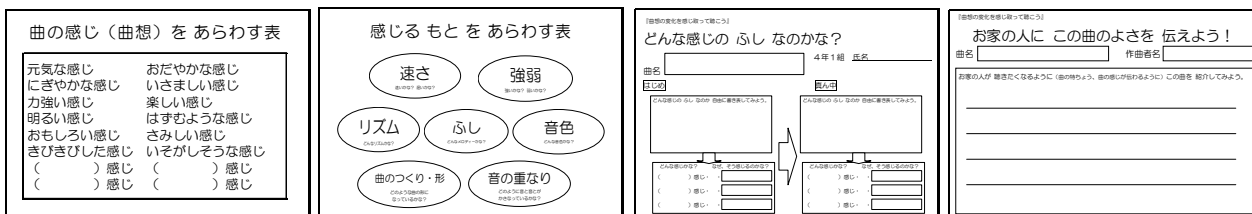


図1 学習カード等

(2) 学習過程の工夫

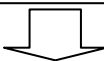
鑑賞領域の題材において、「音楽の感じをつかむとともに学習の見通しをもつ過程」、「音楽の構造的側面を知覚し感性的側面を感じ取る過程」、「感じ取った要素を関連付けて音楽全体のよさを味わう過程」の3段階に分けて学習過程を構成し、それぞれの過程で指導及び評価する内容を明確にした。

【評価】「評価の観点」[評価の場面] (評価の方法)

音楽の感じをつかむとともに学習の見通しをもつ過程

- 自ら音楽を聴こうとする関心・意欲をもたせ、曲の感じをつかむことができるようにする。

【評価】  
「音楽への関心・意欲・態度」[鑑賞している場面] (態度観察)



音楽の構造的側面を知覚し感性的側面を感じ取る過程

ア 音楽の構造的側面を知覚する過程

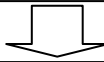
- 比較して聴いたり、音楽を特徴付けている要素を関連付けて聴いたりできるようにする。

【評価】  
「音楽的な感受や表現の工夫」[鑑賞後の記述や発表の場面] (動作観察、学習カードの記述、発表)

イ 音楽の感性的側面を感じ取る過程

- 「～だから(なので)～感じました。」と言語化できるようにする。

【評価】  
「音楽的な感受や表現の工夫」[鑑賞後の記述や発表の場面] (学習カードの記述、発表)



感じ取った要素を関連付けて音楽全体のよさを味わう過程

- 感じ取った様々な要素を関連付けて、音楽全体のよさを味わうとともに、風土や文化・歴史、伝統等とかかわりながら聴くことができるようにする。
- 音楽の楽しみや喜びを求めて多種多様な音楽に関心をもつことができるようにする。

【評価】  
「鑑賞の能力」 [鑑賞後の記述や発表の場面] (学習カードの記述、発表)  
「音楽への関心・意欲・態度」[鑑賞後の記述や発表の場面] (学習カードの記述、発表)

(3) 教材(楽曲)選択の工夫

児童が音楽の様々な要素を感じ取るためには、楽曲自体にねらいとした要素が多分に含まれ、限られた指導時間の中で明確

に感受し味わえるような教材を選択することが大切である。

また、今後様々な音楽に親しむことができるようにするために、日常の生活に関連した身近な楽曲を含めた多種多様な楽曲を取り上げ、音楽美を味わわせることも大切であると考える。

表1 「音楽を特徴付けている要素に焦点を当てた鑑賞教材一覧」(一部抜粋)

この表の分析・分類は一例であり、楽曲は様々な音楽の諸要素が互いにかかり合って成立しているの、連・構造的側面に記した括弧内の要素は、学習指導要領に言葉としては記されていないが、その他の要素とともに

		第1学年及び第2学年	
(1) (音楽活動における鑑賞の能力の育成について)		音楽を聴いてそのよさや楽しさを感じ取るようにする。	
感性的側面(曲想)		ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。	
構造的側面 (音楽を形づくっている様々な要素)	構成要素	<リズム><旋律><音色>	イ (音楽の要素・構成) リズム、旋律及び速さに気を付けて聴くこと。
	表現要素	<速度>( <強弱> )	ウ (表現媒体) 楽器の音色に気を付けて聴くこと。
いア て(児童 よりの 発達の 適切 段階	(低学年) 日常の生活に関連して、情景を思い浮かべやすい楽曲	1年	2年
		<旋律> 「おどる子ねこ」 L. アンダソン作曲 <リズム> 「おもちゃの兵隊」 L. イェッセル作曲	<旋律> 「おどる人形」 E. ボルディーニ作曲 「口ぶえふきと小犬」 A. プライアー作曲 <速度>

以上のことを踏まえ、児童が音楽を特徴付けている要素を感じ取るために適した鑑賞教材(楽曲)を、小学校学習指導要領 音楽 各学年の目標及び内容 と音楽を特徴付けている要素の観点から分類した表を作成した。(表1 参照)

### 研究の結果と考察

#### 1 検証授業

題材を「曲想の変化を感じ取って聴こう」、目標を「管弦楽の音楽に関心もち、旋律の働きや変化を感じ取って聴けるようにする。」と設定し、音楽を特徴付けている要素については旋律に焦点を当てた上で、区立小学校2校(ともに第4学年)で検証授業を実施した。

#### 2 検証授業の結果及び考察(表2 参照)

検証授業は、表2のようなねらいをもって行い、児童の記述から考察を加えた。

「音楽の構造的側面を知覚し感性的側面を感じ取る過程」では、焦点を当てた要素の状態や、そこから喚起される曲想について明確に記述している。このことから音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりを感じ取っていると判断できるとともに、曲想の変化についてもとらえていると判断することができる。

「感じ取った要素を関連付けて音楽全体のよさを味わう過程」でも、旋律について具体的な変化の記述があるとともに、それを基にしての自分なりの批評ができており、鑑賞の能力がおおむね身に付いていると判断することができる。

表2 楽曲を聴いた後の児童の記述及び考察

	「ねらい」及び『鑑賞教材』	A児	B児
事前	『ノルウェー舞曲 作品35 第2番イ長調』 (E.グリーグ作曲)	ゆったりとなめらかなところがあった。大きな音があって迫力があつた。 考察...楽曲を特徴付けている要素のうち、部分的に速度・強弱・旋律についてとらえている。	『曲を聴いて感じたことを書きましょう』 いろいろな楽器を使って響くような感じがしました。 考察...音の重なり(管弦楽の響き)について漠然ととらえている。
知覚し感性的側面を感じ取る過程	「楽曲を特徴付けている諸要素と曲想とのかかわりを感じ取るとともに、その変化を感じ取って聴く。」 『リュートのための古風な舞曲とアリア 第1組曲 2.ガリアルダ』(0.レスピーギ作曲)	『どんな感じのふしなのかな?』 どんな感じかな? なぜそう感じるのかな? [[はじめ] はねている感じ...音が切れているから(スタッカート) にぎやかな感じ...静かではなく元気 [真ん中] やさしい感じ...音がつながっているから(スラー) 考察...要素のうち、旋律の状態、そこから喚起される曲想について記述しており、またその楽曲の部分による違いも感受している。	[[はじめ] はねている感じ...音が少しずつ切れている [真ん中] やさしい感じ...音がつながっているから。遅いから。 考察...旋律の状態、そこから喚起される曲想に加え、速度についても記述しており、要素についてより広くとらえられている。
付けて味わった要素のよさを関連	「楽曲全体を根拠をもって自分なりに批評することができるようにする。」 『リュートのための古風な舞曲とアリア 第1組曲 2.ガリアルダ』(0.レスピーギ作曲)	『お家の人が聴きたくなるように(曲の特徴、曲の感じが伝わるように)この曲を紹介してみよう』 「ガリアルダ」は曲が三つに分かれています。はじめは「スタッカート」が多くて、はねている感じがして、真ん中は「スラー」が多くて、音もつながっていて優しい感じ。最後は「スタッカート」も「スラー」もどちらも入っています。全部違う感じがしてきれいです。おすすめは一番最初です。とても元気なので好きです! 考察...旋律の特徴や曲想について記述しているとともに、自分の楽曲への嗜好について記述されている。	はじめははねている感じ、真ん中はなめらかでやさしい感じです。最初はすこしとぎれていて、真ん中はとぎれていません。 楽器の音はかわってもとぎれないのがすごいから、僕はそこがとていいです。 考察...旋律の特徴や曲想について記述しているとともに、自分の楽曲に対する感情について記述されている。

#### 3 検証授業のまとめ

##### (1) 学習カード等の工夫

「音楽の構造的側面を知覚し感性的側面を感じ取る過程」において、音楽を特徴付けている要素の状態とそれらが生み出す曲の感じを項目立てて記述させることにより、焦点を当てた要素に一層着目するようになり、曲想とのかかわりを明確に理解できるようになった。また、記述したことを発表し合うことで、友達同士で感受したことの共有化を図ることができた。

さらに、「感じ取った要素を関連付けて音楽全体のよさを味わう過程」においては、音楽のよさに着目させながら楽曲の特徴や曲想を言葉で伝えるよう学習カードの設問を工夫したことで、つかんだ曲想を、音楽を特徴付けている要素と関連付けながら記述することができた。また、自分なりの楽曲への嗜好、感情、想像等を表出することもでき、見えにくいと言われる鑑賞の能力を教師が的確にみとることができるようになった。

## (2) 学習過程の工夫

学習過程を3段階に分け、指導及び評価する内容を明確にして指導したことで、児童はそれぞれの過程において学習の見通しをもって取り組むことができた。その結果「音楽の構造的側面を知覚し感性的側面を感じ取る過程」では、すべての児童が焦点を当てた要素の働きについて理解できたとともに、「感じ取った要素を関連付けて音楽全体のよさを味わう過程」では前段階で感受したことを基にして、自分なりの思いを表出することができた。

## (3) 教材（楽曲）選択の工夫

学習のねらいに即して、音楽を特徴付けている要素の働きが顕著な楽曲を選択することで、児童は明確に焦点を当てた要素の状態や曲想とのかかわりを感じ取ることができた。また、関連教材として、児童にとって日常の生活で身近な楽曲（本題材では主教材と同じ作曲者による楽曲）を提示したことで、児童は楽曲や楽器、作曲者に関心をもち、意欲的に楽曲を聴く姿勢を見せた。

以上三つの研究の視点から、学習カード等を活用し、段階的な指導を踏まえた指導と評価の工夫を行うことで、児童の鑑賞の能力の向上を図ることができたと考える。

### 研究の成果と課題

#### 1 成果

##### (1) 音楽を特徴付けている要素を踏まえた批評する力の向上

音楽を特徴付けている要素を焦点化し、その要素と楽曲とのかかわりについて意図的、段階的に学習を進め、学習カード等の工夫をすることで、児童が楽曲を聴いて感受し、味わったことを言葉にしたり、掲示資料を基に明確に記述したりできるようになった。また、身近な人に楽曲の特徴を言葉で伝えるようにしたことで、焦点を当てた要素を踏まえて自分なりに曲のよさを表現することができ、批評する力が高まった。

##### (2) 音楽への関心・意欲の向上

題材の目標に即して、指導及び評価の観点を明確にし、ねらいに即した教材や、その教材に関連した児童にとって身近な教材を選択したことで、児童が音楽を特徴付けている要素を明確にとらえることができるようになり、音楽への関心・意欲が高まった。

#### 2 課題

(1) 旋律以外の音楽を特徴付けている要素について、指導が適切な学年や指導内容、評価方法を明確にし、各学年における系統性を踏まえた、音楽を特徴付けている要素の指導と評価の計画及び学習カードの作成を進めること。

(2) 児童が音楽を特徴付けている要素を容易に聴き取ることができ、自然に旋律を口ずさんだり、何度も聴きたいと感じたりするような魅力的な楽曲を、様々な様式の楽曲の中から選択、整理すること。